

# 婦人労働組合とはどんなものか

我が國の労働者の總數の六割は婦人で、一割は子供で殘る三割が男子である、それで日本の産業界は婦人で立つてゐるといふてもよい。その多數の婦人労働者に組合も無く、故に婦人労働者の半數しかない男子の労働者が(全部組合に入つてはゐないが一部)組合を作つて團結してゐる、男子は八時間制を實施してゐるのに何の必要で女が十二時間働くのか。同じ仕事で同じ出来高であるのに何のために安い賃金で働かざる必要があるのか。一割か二割しか配當して得ない今の時代に女を多く使ふ綿紡が七割の配當してゐる、之だけ女を資本家が安い賃金で酷使してつゝあるのである、男の労働者が組合を造り團結すれば、するだけ、婦人と子供の労働をするものが殖む、機械が發明されたら、されるだけ又殖むて行く、實に間違ふた、寒心にたげないで、茲に婦人労働組合を組織し、男子の組合と協力して、工場に居るものも、自分は働かないでも働く夫を持つてゐるもの、子供を働かしてゐる人に現在の儘にしてゐると、如何なるか? といふ事を述べ「なるほど」と思ふた人は自分は元より、知つて人に働めて、組合に入會して戴きたい。

◎皆さんが、よく御承知でもありますが、市場魚屋、八百屋に買物に行かれた時、その日に依り高い日と安い日とがある。それはその日に魚や青物を市場に多く来るの日と少ない日と原因するので、多い時は安く、少ない時は高いのは言をまたない、その日は安くとも翌日は高い事もある。しかしよく考へて戴きたい。品物が少い時は高くても早く賣れ儲けもある。少い時は安く賣つて労働も苦心も多くてその割に儲けがない。骨ばかり折れる「何を苦んで薄利多賣する必要があるか」と考へ、今の世の中では凡ての生産品は少く、賣り安い様に、何日も「不足勝である、多く生産する事は斷じてない。若し造つても倉庫に收めて必要に應じて賣る今の制度では、如何なる機械が發明されても、如何なる技術者が出ても決して、物價は下落せず、一枚の着物一足の下駄に對して儲けを取るの物價の高いのは當然である。利に敏い資本家は之を一般に利用して金儲けをする、又資本家に儲けさせない事は利用される者がある事になるだらう、日本の物價が世界中で一番高いだけ未だ日本の婦人が覺醒しない事になる。婦人の覺醒しない事は物價迄に及ぼすのである。◎今の産業界で、女でなければ出来ないと云ふ仕事は一つもない。御覽なさい。紡績でも、燐寸工場でも、ゴム工場でも、始めは皆男がやつてゐたのを、女は賃金が安いとか、従順であつて(だまし易いので)資本家に都合がよいから使ふので、女でなければ出来ないと云ふ譯ではない。

機械が發明され、改良されるにつれて、動力と技術があまり要せないので、至極簡易になつて敢て熟練した高給職工や、勞力を持った成年職工を儲けずとも、女や子供のやうな、纖弱者で、優に仕事が出来る様になつて來たので、今の世の中では金さへ持つてゐると立派な人であ

いても決して金持になれない事を知らず)金儲けのみを考へ知らず(の裡に地獄の如き工場に働く様になるのである。

◎從來男は女子供のために外に出て働き一家を支へ女は家にあつて、子供を養育し夫を慰め、一家團樂の樂しみを送つて、例へ仕事をして一厘の報酬を得なかつたが、前に申した通り、機械が發明されてより、女を使用する様になり幾許かの金儲けが出来て嫁入道具の一つも、生活費のたしに、工場に出て働く様になるのであるがよく考へて戴きたいのはこのである。女は男より賃金は安い、その割に仕事出来高に變りはない。仕事に依つては、女の方が、多く出来るものもあるで、女を使用せんと資本家はしてゐる時、女は嫁入道具を買ひたいため生活費のたしに働かん、するので願つたり叶ふたりで、男に比し賃金は安い、よく盲従して使ひ易い、その上支向を云はないので、女を使ふと、昨日迄男のした仕事でも女がやる、男の仕事が女が、追々奪ひ、男は働く仕事が無く、有つても賃金が安い。それで、一般に男の賃金が下がり男一人で働いて、一家を養ふて來たものが妻も子も働かし、自分が働かず妻と子を働かして口糊を渡がなくてはならん様になつた。男は妻女は夜(紡績の如く)働いて果して、夫婦として、家族としての樂しみ子供の養育はどうなるか、妙齡の女工の將來はどうなるかを考へる時、姦通私通墮胎となり、更に重大な罪惡不道德を生む原因となるのである、見よ可憐嫁入前の大事の體を淫蕩に持崩し、終生身を誤るもの、苟しくも身を教育界に置きながら、女生徒を姦み、校長は女教員を姦むのであるから腐敗し墮落した工場内に於て人妻であるか否との別なく監督が女工を姦んで起つた悲劇劇の實例は數限りなく、家庭は紊亂し家庭生活は破損されるのである、婦人が働く様になつて以來起る、弊害は一々列擧するに限りがない。

更に申します、労働をせすとも労働者の妻となつてゐる人よ、景氣のよい時でさへ、食ふや食はずに居り乍ら一朝不景氣が來た時一大苦痛は失業問題である、失業者の出る原因は、別に述べるとして、失業者の多く出る時は、一般何處へ行つても口がなく、探すのに非常な苦心をして、例へあつても、土地の關係上オオソレと行く事も出来ず、自分の手慣れた種類の職業以外の仕事に就く事は困難であり外の仕事に従事するにしても、賃金が安い、長く失業して居れば餓死するか、盜するか、しかたがない、かゝる時に夫と共に、苦しむ故に妻としても考へる必要がある。

以上述べた如く、資本家が暴挙を行ひ、非人道的的行為は労働者にもその家庭にも物價にも總て害する鬼か惡魔である、正義人達はここにあり、見よ、弱く、女や子供が働か強壯の男子が遊んでゐる、其の極劇を目視し難く不運な人々のため自分のため、全力を注がねばならぬ。最早労働組合に關して云ふ必要もないが、労働問題の第一歩として妻を夫の唇に、子を母の許に返して、一家の團樂の樂を得、尙進んで